News Letter 第9号
2012 年4月 1 日発行
発行人　主教　加藤博道
編集人　司祭　中村　淳

いっしょに歩こう！プロジェクト

日本聖公会東日本大震災被災者支援

追悼・記憶　～東日本大震災から１年～

２０１２年３月１１日（大斎節第３主日）福島県新地町の磯山聖ヨハネ教会では、聖堂が被災し使用不能なため、信徒宅の敷地にテントを張り主日と共に震災から１年、津波によって亡くなられた信徒３名の逝去者を覚え聖餐式が献げられました。

大震災当日、新地町の震度は６強で、津波は本震から約１時間後の午後３時４０分頃に到達しました。津波被害による家屋の全壊と半壊以上は５１７世帯、地震被害による全壊と半壊以上は８１世帯に上りました。津波による浸水域は実に町域の５分の１に及びました。人的被害は新地町全人口約８２００名の内死者１００名、行方不明者１０名（２０１１年6月３０日現在）に上りました。（被災状況データは「広報新地」より転載）

東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）の祈り

２０１２年３月１１日 日本聖公会主教会

「東日本大震災のための祈り」

苦しみ悩みのうちにある人びとを常に支えてくださる主よ、東 日 本 大 震災のすべての逝 去 者と被 災 者を覚えて祈ります。
大 震 災によって世を去ったすべての人（ことに――）が、慈しみ深い主のみ腕に抱かれ、憩うことができますように。
また、地 震と津 波、放 射 能 汚 染により、愛する人を失い悲しみと孤 独のうちにある人びと、離 散させられた人びと、今もなお弱い立 場におかれている多くの人びと（ことに――）を、その傍らに立ってお支えください。
そして震 災 復 興のためのすべての働きが、痛みの多いこの地 上に希 望をもたらすものとなりますように。
慰めの主よ、わたしたちがこれらのことを憶え続け、困 難を負って生きる人びとと共に、主のみ跡に従って歩むことができますように、この祈りを主イエス・キリストのみ名によってお願いいたします。

アーメン

キャサリン・ジェファーツ＝ショーリ米国聖公会総裁主教被災地訪問

２月１４日から１６日にかけて被災地を訪問された。１４日夜に広島から到着され、１５日朝、気仙沼へ出発。気仙沼ではプロジェクトで関わっている「ワークショップひまわり」のスタッフが案内をしてくださった。

気仙沼市・「ひまわり」にて

まだまだ片づけが終わっていない気仙沼市街地を初めて目にされた一行は言葉を失っていたが、「どのくらいの高さまで波が来たのか？」「何人の方が亡くなったのか？」などの質問をされていた。気仙沼から志津川へ移動し、プロジェクト外国人支援プログラムへの参加者から話を聞かれた。

磯山聖ヨハネ教会礼拝堂での祈り

１６日は新地町を訪問。磯山聖ヨハネ教会信徒さんの案内で教会の歴史と震災時の状況を聞かれ、教会をずっと守り続けてこられた信徒の皆さんと一緒に祈りを捧げられた。ジェファーツ・ショーリ主教はこの被災地訪問を終えられ、とても心が動かされた、日本聖公会が何を行おうとしているのかが分かった、というコメントを述べられた。

志津川にて

東北教区

「荒野の礼拝」

磯山聖ヨハネ教会
管理牧師　司祭　ヤコブ　林　国秀

新地町埒浜付近

磯山聖ヨハネ教会は東日本大震災１周年の日を、同時に、津波によって逝去された３名の信徒(イサク三宅　實兄、スザンナ三宅よしみ姉、グレース中曽順子姉)の逝去記念日として迎えました。この東日本大震災１周年の日の礼拝は、私ども磯山聖ヨハネ教会の願いを受け止めていただき、聖堂が見え、磯山の人々が暮らしていた場所に大テントを設置して行うこととなりました。

礼拝では日本聖公会首座主教・植松　誠主教が説教をお務めくださり、また、日韓協働プロジェクトより派遣された大韓聖公会ソウル教区のイ・デソン、イ・ジョンホ両神父が参加され礼拝の奉仕もされました。なお、司式は磯山聖ヨハネ教会管理牧師の林国秀司祭が行い、「いっしょに歩こう！プロジェクト」の中村淳司祭が補式を務め、予想を超える５５名が出席されました。磯山聖ヨハネ教会の信徒はもちろん、管区関係者、近隣教会の信徒、地元の方々、「いっしょに歩こう！プロジェクト」のスタッフ、そして、東日本大震災で被災されたふじ幼稚園の皆さんがご出席くださいました。被災地で行う聖餐式は主がこの荒野にもおいでくださっていることを確信させ、大きな励ましをいただきました。最後に磯山聖ヨハネ教会のダビデ三宅　行（つよし）兄が代表として挨拶され、被災地の悲しみはまだ癒されず、引き続きご支援いただきたいことを述べられました。被災地にとって東日本大震災はまだ終わることなく続いていることを覚えていただきたいと思います。

説教者　植松　誠主教

中央・執筆者　林　国秀司祭

日本聖公会１１教区　共に祈り、記憶した３月１１日

大阪教区

東日本大震災１周年を祈念して「祈りと賛美・東日本大震災１周年記念聖餐式」が大阪教区主教座聖堂・川口基督教会で３月１０日（土）午後２時より行われました。司式はサムエル大西　修大阪教区主教。説教者はアンデレ中村豊神戸教区主教。賛美にルツ濱崎高子姉を迎えての奉献礼拝。出席者１３７名、席上献金１４１，００７円を救援募金として捧げました。

中部教区

中部教区の各教会でも３月１１日には、震災１年の祈りが営まれました。日系フィリピン人が多く集う可児ミッション（岐阜県）では、主日聖餐式の中で、時間を設けてキャンドルを灯して特別な祈りが献げられました。」

海老原氏を招いての釜石ベース報告会（札幌キリスト２／26）

北海道教区

震災から一年を経過しましたが、日本聖公会「いっしょに歩こうプロジェクト」の働きは、更に一年続きます。「釜石ベース」を中心とする北海道教区の働きも、同じくあと一年間継続されます。更に一層の祈りとご協力をいただきたく、北海道教区震災支援室では「北海道教区震災支援室中間報告」と「ボランティアハンドブック」を編集中。イースターには皆さんの手に届くよう作業を進めています。（「北海道教区支援室ニュース２４号」より）

※「釜石ベースブログ」は、毎日更新されています。是非ご覧ください。

京都教区

京都教区主教座聖堂（聖アグネス教会）で毎週火曜日に東日本大震災の被災者を覚えて昼の祈りをささげています。昨年４月から、京都でも集まって祈りをささげよう、するべき事を祈りながら考えようと始まりました。京都教区震災対策室のブログ(http://nskk-kytsinsai.blogspot.jp/)もご覧ください。

北関東教区

教区としてまとまった追悼礼拝などは計画しません。各教会の主日礼拝で、「東日本大震災一周年特祷」が祈られ、「主教会メッセージ」が読まれます。また、東京に近い埼玉は、東京で行われるＮＣＣとカトリック教会合同の礼拝に出席した人がいらっしゃいます。私は日立聖アンデレ教会での礼拝でした。説教の前に主教会メッセージを朗読し、説教をいたしました。多くの被災者、ことに逝去なさった方々の魂の平安を祈りました。

神戸教区

神戸教区の各教会でも、東日本大震災１年の記念礼拝が、まもられました。主教座聖堂では中村主教の司式・説教のもと行われ礼拝後は、青年会の支援カフェ。2 時 24 分には黙祷が捧げられました。

東京教区

東日本大震災を憶えての祈り

去る３月１１日、東京教区は各教会での祈りとともに聖アンデレ主教座聖堂で午後２時から祈りの時を持ちました。当日は、約１２０名が集い、震災を憶え、黙想と祈りの時を過ごしました。

横浜教区

３月３日（土）、横浜聖アンデレ主教座聖堂にて「東日本大震災後一年記念聖餐式・講演会」を開催。震災逝去者の魂と被災者を憶え平安のうちに復興がなされることを祈り、援助修道会高木慶子シスターより「大震災で、神はわたしたちに何を問われたのか」のテーマのもと講演をいただいた。

九州教区

東日本大震災一周年にあたり追悼と再生を願う合同祈祷会が、３月１１日日本基督教団福岡中部教会で開催された。福岡市内のカトリック、聖公会、基督教団、バプテスト、ルーテルの各教団の代表が共同司式し、約２２０名が参加。聖公会からは３０名が出席した。２時４６分に琴による追悼曲が演奏され黙祷が奉げられた。

沖縄教区

・・・あの時を忘れない、そしてこれからの未来のために・・・

「東日本大震災 3.11 祈念チャリティーコンサート」が、沖縄キリスト教協議会主催で沖縄キリスト教学院チャペルにて、午後４時から教派を越え約 250 名の参加の下、第１部 祈りの時、第 2 部 コンサートという構成で開催された。

「がんばろう！日本」といわないで

北関東教区水戸聖ステパノ教会
牧師・司祭　斎藤英樹

この一年、いつも頭にあった聖句がある。「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」（ロマ１２：１５）。私たちは喜んでいる人がいると嫉妬を覚え、「今に見ていろ、俺だって！」と思い、なかなか一緒に喜べない。泣いている人を見ると励ましたくなる。「大丈夫、大丈夫、長い人生・・・」と言って慰め、励ます。

昨年３月１１日以降、どれだけ多くの方々に声をかけられ、励まされたことだろう。礼拝堂は崩れ、園舎は亀裂、そのような景色をながめながら「これからどうしよう」と頭は真っ白、心は真っ暗だった。その心に一筋の光が差し込まれたのが「日立の牧師館をボランティアセンターとして解放してくれないか」という問い合わせだった。京阪神から２カ月の間に約１５０人の方々がやってきて日立、水戸、小名浜で活動した。この方たちを支える活動が日立、水戸

東日本大震災で亀裂が入り、撤去されたベルタワーが復活した水戸聖ステパノ教会

で始まった。布団を集めた。ご婦人は夕食を差し入れた。一緒に活動もした。日立、水戸の信徒、保護者の方もそれぞれに被災しながらボランティアの方々を支えるために、そして被災している方々のために活動した。

これらを通して感じたことは、京阪神から来た方々は、瓦礫の撤去に来たのではない。屋根の修理をしに来たのではない。彼らは被災した人と共にいるために来たのだ、と強く感じた。「泣く人と共に泣いている」彼らを見た。

「日立の牧師館を解放して良かった」と心から思っている。今年日立の教会は宣教 100 年という記念の年を迎えているのだが、最高の準備の時を与えられた。教会はこの活動を通して元気になり、他者のために働く喜びを教えられた。

今、京阪神のボランティアセンターは小名浜へ移動した。日立、水戸の教会はこのセンターの活動を支援するため、そして私たちが知った喜びを小名浜の教会にも分かちたくて活動している。まだまだ続けなければならない活動だが、共にいてくださる主の導きによって一歩一歩進んでゆきたいと思っている。

震災１年を振り返って

セントポール幼稚園（郡山市）
園長　菊池温子

２０１１年３月１１日の大震災の日、私はセントポール幼稚園に勤務していました。停電と電話回線の混み合いで園児の各家庭との安否連絡も、送迎中の教職員の状況も、自宅に二人でいた我が娘の安否も分からないまま『生きていて！』と祈る中で時間だけが過ぎていったあの日。目に見えない困難と向き合わなければな

らない事態に加え、原発事故による放射線からの自主避難のために、大好きだった沢山の園児や保護者との悲しい別れもありました。

決して忘れてはいけない現実と向き合い、出来る限りの努力をしながら教職員一同前進しています。自分自身にも『大丈夫！』と何度も繰り返し言い聞かせ、笑顔を忘れず毎日を過ごしています。郡山に残り幼稚園を必要として下さる園児・保護者の存在、そして遠くから福島の地を想い心に寄り添って下さる、多くの皆様に支えていただいているからこそ頑張ることが出来ています。

園内の放射線測定ポイント

２月に入り風邪で休み、久々に登園して来た園児が『あのね。ぼくね。早くお友だちみんなの隣で遊びたかったんだ。だから今日は嬉しい。』と満面の笑みで話してくれました。放射線からの避難を余儀なくされた園児も、早く郡山に帰りたい！お友達と遊びたい！と、心の中で願っていたのだろう・・・。と辛い気持ちになりました。そんな時、テレビで『慈』『慶』『恕』等々『心』を使った漢字が目に飛び込んできました。以前の私でしたら気にも留めず見逃していたであろうコマーシャルですが、どんな些細なことでも心に受け止め、相手を思いやることの必要性を再確認することができました。

改めて震災一年を振り返ってみますと、沢山の方々との出会いもありました。『先生方のこと、園児のこと、保護者の方々のことを覚えいつもお祈りしています。』と、励ましの電話や手紙、メールも沢山いただきました。人と人との繋がりや助け合うことの大切さ、自分は一人ではないことをより強く感じる一年でした。

沢山の方々からいただきました『愛』に、心から感謝しています。

見て、感じて、伝え続けること

仙台聖フランシス教会

サムエル　渡部正裕

３月１１日の大震災後、ちょうど会社を早期退職し、身軽になった自分が「いっしょに歩こう！プロジェクト」のボランティア活動へ参加するのは神様の自然なお導きだったのかもしれません。震災後に再就職活動も行いましたが、難しい局面でもあったので就活をいったん封印し、何回か釜石と南三陸町への救援物資の搬送ボランティアを行いました。その後名取市の仮設住宅「箱塚桜団地」と１０月からは「愛島地区」の生活支援として２か所の「お買い物ツアー」のボランティアに定期参加することになりました。最初に「お買い物ツアー」のボランティアに行ったときは正直緊張しました。まず被災された方とどのように接すればいいのかと・・・でも、マイクロバスに乗ってからはそんな心配はいらなくなりました。皆さんが口々に「とても楽しみにしていた」とおっしゃってくださっていましたので。

名取市のショッピングセンター

また、本当にこの人たちは被災された方たちなのかと思うほど車の中では楽しい会話が弾

んでいました。しかし、一度被災者の方の地元である閖上にお連れした時はさすがに帰りの車の中は静まりかえっていました。

でも、「久しぶりに閖上の風の匂いを感じられてよかったです」と涙ぐんで感謝されたことを覚えています。この「お買い物ツアー」に参加して一番心に痛みを感じるのが、被災地とそうでないところのギャップにあります。荒涼とした被災地現場から車で２０分も走れば、そこにはもう日常生活に戻った場所があります。一番の思いは、このような被災地が近くに存在していることを忘れないこと、そして見物でもいいから被災地を生の目で見てほしいということです。震災後間もなく、ボランティアで釜石に行った時、写真を撮ってもいいですかと聞いたところ「たくさん撮ってみんなに見せてください、そしてこの現状を忘れないで欲しい」と言われたことが印象に残っています。

名取のお買いものツアーに参加して、すでに９か月が過ぎようとしていますが、被災地の人たちとなんでも話せる仲になれたことが一番の収穫だと思います。

まだまだ復興に向けて長い道のりだと思いますが、皆の力を合わせた支援を長く続けていくことが必要だと思います。

仙台圏ベース　２、３月の動きから

□志津川・ホームヘルパー２級講座

３月１０日（土）外国人支援の一環として行ってきたホームヘルパー２級講座が、いよいよ最終回を迎えることができました。合計８回の講座を受けてきた６名のフィリピンのお母さんたちは、３月１３日から５日間の実習に入ります。資格取得まであとわずかです。

また、陸前高田などでは同じく外国人の方のための英語教師養成講座が始まっています。

□各地から訪問団

２月１８日（土）大阪教区より「祈りと交わりの旅」一行が仙台空港に到着。山元町のふじ幼稚園、新地町の磯山聖ヨハネ教会を訪問。２泊３日の旅程で志津川、石巻市雄勝、旧市街を訪問し帰阪されました。３月１２日（月）には中部教区から６名が来訪。１３日（火）は新地町でボランティア活動、１４日は石巻市、南三陸町、気仙沼市を訪問された。そのほか個人的にお訪ねくださった方も多数いらっしゃいました。海外からは巻頭でご紹介した米国聖公会のキャサリン・ジェファーツ＝ショーリ総裁主教ご一行が被災地を訪問され、お隣韓国からはソウル教区の司祭２人と朝鮮日報の記者、ソウル市近郊の地方都市の防災関係部署の市職員が来訪されています。

「いっしょに歩こう！プロジェクト」事務局
【open】月～金　10:00～17:00　【close】土・日・祝
〒980－0803　宮城県仙台市青葉区国分町 3－4－5　クライスビル 2F
TEL:022-265-5221　FAX:022-748-5321
E-mail:walk@nskk.org　URL:http://www.nskk.org/walk/